

大分教育事務所訪問 10

臼杵市立臼杵南小学校から学ぶ

学校の教育目標「心と体をきたえ 学びあい みとめ合える子ども」を育成するために、小規模特認校の強みを活かし、「笑顔と愛にあふれる」をスローガンとして全職員で取り組んでいます。

学校経営から学ぶ

学校評価の4点セットの各取組指標については、2ヶ月間という短期で検証を行っています。その内容も、実施回数(教師は何をした)と、それによって子どもがどのように変容したか(検証指標)を事実をもとに明記させ、さら

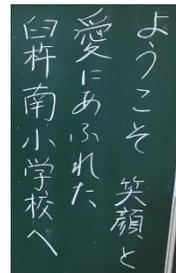
学びあい みとめ合える子どもの育成		子どもの変容	困っていることや改善案
判断基準	評価		
A 毎日実施	25%	○同じパターンで行うことで、授業の見直しをもつて取り組むようになった。	○子どもに興味をもたせる工夫をしたい。
B 9割以上実施	38%	○4年生の授業では、めあてとふり返りを設定することで、学習中にフリーズすることが減った。	
C 7割以上実施	25%	○課題→まとめ、めあて→ふり返りが子どもたちで意識できるようになった。	
D 7割未満実施	12%	○ふり返りをすらすら書けるようになってきた。	
A 9割以上実施	25%	○パターン化しているのが、戸惑いはない。	
B 8割以上実施	25%	○パターンを少しずつ覚えてきている。	
C 7割以上実施	25%	○放課後を使うことで、できることが増えた子がいた。	
D 7割未満実施	25%	○学活の時間や南っ子タイムで、苦手な単元、項目の補充を行った。	
A ほぼ毎日実施	86%	○毎日、取り組んでいる。	
		○楽しく音読には取り組んでいる。	

に、困っていることや改善案を出させ、それに対して校長先生がコメントや助言を記入しています。このことで、主要主任(チームリーダー)が責任をもってチームの目標を管理ができ、ボトムアップで新たな取組が生まれ、取組に不安な教師に対してはチームからの助言や支援ができ孤業になることが避けられます。

この自己評価結果と考察のあり方は、他の範となるものと思いました。

授業から学ぶ

支援が必要な児童の自立活動を、その児童の希望と特性から他学年の普通教室で行っていました。全校児童65名全てが、自分の学級の子ども達という思いで接していると感じました。このような教職員の姿勢が子ども達にも伝わっており、特に6年生の道徳では、異なる考えに対しても否定的な言葉ではなく、それぞれの考えを受け入れる姿勢を感じました。今後は、授業の「ふりかえり」の場面で、子ども達がどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、具体的なゴールの姿をイメージすることで、4点セットの「子どもの変容」が明確になり検証改善が進むと思いました。



NO.68 2021年6月 臼杵市立臼杵南小学校

優しさの手

「次はあなたが」そんな優しい人がいるから、聴き合う集団となっていく。



NO.70 2021年6月 臼杵市立臼杵南小学校

ゆずりあい

みんなが楽しく活動できるグループを自分達で考える。繰り返すことで、ゆずりあう心が育つ。



NO.71 2021年6月 臼杵市立臼杵南小学校

自立への距離

子どもの自立を支えるため、手は離すが、目は離さない。距離を常に意識する。



NO.69 2021年6月 臼杵市立臼杵南小学校

天井を突き刺す

腕は耳につけて天井を突き刺すように真っ直ぐに手を挙げ、指先まで集中する。そんな挙手から、自信と意欲が伝わる。